



2021年9月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2021年5月14日

上場会社名 株式会社フォーシーズホールディングス 上場取引所 東
 コード番号 3726 URL <https://www.4cs-holdings.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 天童 淑巳
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員管理副本部長 (氏名) 上畠 正教 (TEL) 092-720-5460
 四半期報告書提出予定日 2021年5月14日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有

(百万円未満切捨て)

1. 2021年9月期第2四半期の連結業績(2020年10月1日~2021年3月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(％表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	％
2021年9月期第2四半期	980	8.0	△93	—	△95	—	△88	—
2020年9月期第2四半期	907	△3.4	△166	—	△172	—	△182	—

(注) 包括利益 2021年9月期第2四半期 △88百万円(—%) 2020年9月期第2四半期 △183百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年9月期第2四半期	△12.39	—
2020年9月期第2四半期	△26.98	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	％
2021年9月期第2四半期	1,932	685	35.0
2020年9月期	2,026	673	32.7

(参考) 自己資本 2021年9月期第2四半期 676百万円 2020年9月期 663百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年9月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2021年9月期	—	0.00	—	—	—
2021年9月期(予想)	—	—	—	—	—

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

2021年9月期の配当予想につきましては未定です。

3. 2021年9月期の連結業績予想(2020年10月1日~2021年9月30日)

(％表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	円 銭
通期	—	—	—	—	—	—	—	—

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 有
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
 新規 1社(社名) 合同会社アロマ 、除外 一社(社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2021年9月期2Q	7,377,670株	2020年9月期	7,175,570株
② 期末自己株式数	2021年9月期2Q	189,810株	2020年9月期	190,380株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2021年9月期2Q	7,102,237株	2020年9月期2Q	6,781,790株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に掲載されている業績予想に関する記述は、当社が本資料の発表日現在で入手可能な情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は、当社の事業を取り巻く経済情勢、市場動向等に関する様々な要因により、記述されている業績予想とは異なる可能性があります。

業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(追加情報)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	9
(重要な後発事象)	11
3. その他	12
継続企業の前提に関する重要事象等	12

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、インバウンド需要は引き続き消失したままではあるものの、一方でG o T oキャンペーンなどの一定の政策効果もあり、個人消費は持ち直しつつありました。しかしながら、第3波と呼ばれる新型コロナウイルスの感染拡大により、倒産企業や失業者の増加が続き、さらに2021年1月7日の緊急事態宣言の発令が3月7日まで延長されるなど、国内景気の先行きは引き続き不透明感が強まっております。このような状況のもと、当社グループにおきましても業績回復に向けて、各事業会社がそれぞれの特性に合わせた積極的な施策を推進しており、また、グループ全体で取り組んでいるコスト改善プロジェクトの効果もあり、前年に対しては大幅に上回る業績となりましたが、本日「2021年9月期第2四半期連結業績予想と実績値との差異および通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」にて開示させていただいたとおり、当第2四半期の連結業績予想に対しては下回る結果となりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の経営成績は、売上高980,009千円（前年同四半期比8.0%増）となり、営業損失93,541千円（前年同四半期は営業損失166,682千円）、経常損失95,775千円（前年同四半期は経常損失172,406千円）、親会社株主に帰属する四半期純損失88,009千円（前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純損失182,963千円）となりました。

また、2021年4月1日に公表いたしました「アロマ事業譲受完了並びに新たな事業の開始に関するお知らせ（開示事項の経過）」のとおり、アロマ事業の譲受も完了し4月1日より事業を開始しております。アロマ事業として運営する『アロマブルーム』では、メインとなるエッセンシャルオイル等のアロマ関連の商品を主力とし、シーンやコンセプトに合わせた雑貨販売を行ってまいります。暮らしの中に香りとリラクゼーションを提案するライフスタイルショップを首都圏中心に39店舗（2021年4月1日時点）運営しており、今後は社員教育を拡充することでこれまでの首都圏を中心とした店舗展開から全国展開を図ってまいります。また、当社グループでのEC販売の強みを活かしたリピート需要の喚起や、顧客ニーズに合わせた販売展開を予定しております。アロマ事業は第3四半期連結会計期間より連結対象となりますので、本日「2021年9月期第2四半期連結業績予想と実績値との差異および通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」にて通期の連結業績予想を修正させていただいておりますが、本事業譲受により当社グループの売上規模の拡大に貢献するのみならず、当社グループのシナジー効果がはたらく売上・利益の成長ドライバーとしての一端も担うものと考えております。

今後も、当グループの企業価値をさらに高めるため、新規事業に向けたM&Aをさらに積極的に進めてまいります。

セグメント別の業績は、次のとおりであります。

(コミュニケーション・セールス事業)

コミュニケーション・セールス事業におきましては、売上高686,137千円（前年同四半期比20.4%増）、セグメント損失21,695千円（前年同四半期はセグメント損失175,842千円）となり、セグメント損失ではあるものの、前年同四半期に対しては大幅に上回る結果となりました。

今期の施策としては、前期から引き続き、Webプロモーションの強化による新規顧客の獲得をベースとし、営業体制の再構築による新規顧客のリピーター化、定期顧客化、一定期間取引のない顧客への再販並びにクロスセルの推進による収益拡大を目指しておりますが、Webプロモーションにより獲得できた新規顧客の引き上げ率が予想を下回る結果となりました。海外への販売チャネルの拡大につきましては、認知拡大を目的に積極的にプロモーション活動をしており、中国におけるSNSサイト「RED」と「Weibo」を展開し、短期間で約33,000人のフォロワー数を獲得することができております。また、ベトナムにおいてスパークリングクリアパックの一般貿易をスタートし、タイのコスメショップで販売を開始するなど、東南アジアを中心とした販路の拡大は順調に進んでおります。

今後も引き続きWebプロモーションを軸とした戦略に取り組むと同時に、ホームページにもリリースさせていただいたとおり、新商品として「マスク リフレッシュ ミスト」「フェヴリナ スパークリング プレストパウダー」の販売、さらに14年ぶりの炭酸コスメとして開発された「ナノアクア ブライトアップセラム（泡状炭酸

美容液)」を販売するなど、新たな商品を展開することにより、今期の黒字化を実現してまいります。

(化粧品卸事業)

化粧品卸事業におきましては、コロナウイルス禍の影響は今期も引き続き継続すると予測しておりましたが、インバウンド需要の消失による影響は非常に大きく、売上高204,799千円（前年同四半期比34.3%減）、セグメント損失81,694千円（前年同四半期はセグメント利益19,249千円）となり、前年同四半期に対して大きく下回る結果となりました。

今期の施策としては、広告宣伝・販売促進活動を強化することによる新たな顧客層の掘り起こしによる、国内卸販売の回復、EC販売の伸長を目指しており、インスタグラマーやユーチューバーを積極的に活用し新たなピーリング市場へのアピール強化に努めておりました。しかしながら、ドラッグストアをはじめとした小売業界におけるコロナウイルス禍の影響は根強く、国内卸売上につきましては前年を大きく下回る結果となりました。また、前年度より取り掛かっている海外売上につきましても、中国国内での大イベントであるW11とW12において追加発注をいただくなど当初は順調に推移しておりましたが、契約時期の関係もあり前年を若干下回る結果となりました。

今後は新商品であるホワイトクリアジェルのドラッグストアへの店舗展開に向けた販売促進の強化、インスタグラマーやユーチューバーの活用による国内EC販売の強化、東南アジアを中心としたアジア市場への拡大により、業績の回復を実現してまいります。

(衛生コンサルティング事業)

衛生コンサルティング事業におきましては、売上高89,565千円（前年同四半期比232.0%増）、セグメント損失6,988千円（前年同四半期はセグメント損失28,251千円）となり、セグメント損失ではあるものの、前年同四半期に対しては大幅に上回る結果となりました。今期の施策としては、大手企業との協業、代理店の拡大による「空間除菌デバイスDeviрусAC（デヴィルスエーシー）」の販売拡大を最優先としております。積極的に開示もさせていただいているとおり、北海道大学と北海道におけるホルスタイン種乳牛の手術時の除菌方法として、亜塩素酸水「クロラス除菌ウォーター」を活用する検証の開始、北海道紋別市の観光事業への感染症対策ソリューションの提供、三重県亀山市が運営する医療施設への感染症対策ソリューションの提供、大手学習塾への感染症対策ソリューション提供など、着実に販売拡大ができており、販売拡大に対応するための希釈水製造工場を2020年12月15日に開設しました。しかしながら、原点である飲食店、食品工場向け衛生サービスに関する需要掘り起こしにおきましては、コロナウイルス禍の影響により、飲食店の体力回復にはいまだ時間がかかっております。

今後はニーズの高い「空間除菌デバイスDeviрусAC（デヴィルスエーシー）」の販売を中心とするものの、HACCPジャパンが監修した飲食店向けHACCPアプリの開発も完了しており、微生物蛍光画像測定機「BACTERESTER（バクテスター）」に対するニーズも高まるものと考え、今期の黒字化を目指してまいります。

(2) 財政状態に関する説明

① 資産、負債及び純資産の状況

(資産)

当第2四半期連結会計期間末における資産の残高は1,932,702千円（前連結会計年度末2,026,445千円）、その内訳は流動資産1,537,232千円、固定資産395,469千円となり、前連結会計年度末に比べ93,743千円減少いたしました。これは主に、現金及び預金の減少156,707千円、受取手形及び売掛金の減少25,715千円、商品及び製品の増加36,872千円、有形及び無形固定資産の減損損失計上及び償却による減少6,006千円等によるものであります。

(負債)

当第2四半期連結会計期間末における負債の残高は1,246,985千円（前連結会計年度末1,352,607千円）、その内訳は流動負債791,749千円、固定負債455,235千円となり、前連結会計年度末に比べ105,622千円減少いたしました。これは主に、買掛金の減少49,278千円、1年内返済予定を含む長期借入金の返済による減少71,472千円、長期借入金の借入による増加40,000千円、株主優待引当金の減少22,277千円、繰延税金負債の減少26,155千円によるものであります。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産の残高は685,716千円（前連結会計年度末673,837千円）となり、11,879千円増加いたしました。これは主に、新株予約権の一部権利行使による増資により資本金及び資本剰余金がそれぞれ50,322千円増加した一方で、親会社株主に帰属する四半期純損失88,009千円の計上により利益剰余金が減少したことによるもの等によるものであります。

② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、812,423千円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は、次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果使用された資金は、118,004千円（前年同四半期は45,388千円の使用）となりました。

これは主に、税金等調整前四半期純損失110,499千円、減価償却費23,914千円、減損損失15,057千円、株主優待引当金の減少22,277千円、売上債権の減少25,715千円、たな卸資産の増加37,966千円、仕入債務の減少49,278千円、未払金及び未払費用の増加20,057千円等によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用された資金は、107,050千円（前年同四半期は22,736千円の獲得）となりました。

これは主に、有形及び無形固定資産の取得による支出29,780千円、事業譲受による前払金の支出88,000千円等によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果得られた資金は、68,334千円（前年同四半期は122,624千円の使用）となりました。

これは主に、長期借入れによる収入40,000千円、長期借入金の返済による支出71,472千円、新株予約権の行使による株式の発行による収入100,039千円等によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2021年9月期の通期連結業績予想につきましては、2020年11月13日に公表いたしました、業績予想の数値を修正いたしました。なお、詳細につきましては、本日（2021年5月14日）公表いたしました「2021年9月期第2四半期連結業績予想と実績値との差異および通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,119,460	962,752
受取手形及び売掛金	157,575	131,860
商品及び製品	272,966	309,839
原材料及び貯蔵品	23,314	24,408
その他	53,689	108,427
貸倒引当金	△41	△56
流動資産合計	1,626,965	1,537,232
固定資産		
有形固定資産	8,951	27,659
無形固定資産		
のれん	71,755	67,126
顧客関連資産	265,884	248,730
その他	20,809	17,878
無形固定資産合計	358,449	333,735
投資その他の資産	32,079	34,074
固定資産合計	399,480	395,469
資産合計	2,026,445	1,932,702
負債の部		
流動負債		
買掛金	83,921	34,643
短期借入金	400,000	400,000
1年内返済予定の長期借入金	143,424	145,704
未払法人税等	3,394	6,531
賞与引当金	16,257	7,051
返品調整引当金	11,212	17,552
ポイント引当金	5,166	4,333
株主優待引当金	22,700	422
その他	154,513	175,510
流動負債合計	840,591	791,749
固定負債		
長期借入金	431,491	397,739
繰延税金負債	63,879	37,724
資産除去債務	15,710	18,840
その他	935	931
固定負債合計	512,016	455,235
負債合計	1,352,607	1,246,985
純資産の部		
株主資本		
資本金	932,808	983,131
資本剰余金	399,516	450,072
利益剰余金	△608,867	△696,876
自己株式	△59,918	△59,801
株主資本合計	663,539	676,526
新株予約権	10,297	9,190
純資産合計	673,837	685,716
負債純資産合計	2,026,445	1,932,702

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2019年10月1日 至2020年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自2020年10月1日 至2021年3月31日)
売上高	907,598	980,009
売上原価	231,295	238,893
売上総利益	676,302	741,116
返品調整引当金戻入額	2,346	11,212
返品調整引当金繰入額	6,091	17,552
差引売上総利益	672,558	734,776
販売費及び一般管理費	839,240	828,317
営業損失(△)	△166,682	△93,541
営業外収益		
受取利息	17	20
受取賠償金	83	331
助成金収入	—	1,684
その他	544	693
営業外収益合計	645	2,730
営業外費用		
支払利息	6,093	4,095
株式交付費	—	773
その他	276	95
営業外費用合計	6,369	4,964
経常損失(△)	△172,406	△95,775
特別利益		
新株予約権戻入益	417	334
特別利益合計	417	334
特別損失		
減損損失	—	15,057
特別損失合計	—	15,057
税金等調整前四半期純損失(△)	△171,989	△110,499
法人税、住民税及び事業税	4,265	3,665
法人税等調整額	6,808	△26,155
法人税等合計	11,074	△22,490
四半期純損失(△)	△183,063	△88,009
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△100	—
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△182,963	△88,009

四半期連結包括利益計算書
第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年10月1日 至 2020年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年10月1日 至 2021年3月31日)
四半期純損失(△)	△183,063	△88,009
四半期包括利益	△183,063	△88,009
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△182,963	△88,009
非支配株主に係る四半期包括利益	△100	—

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2019年10月1日 至2020年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自2020年10月1日 至2021年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純損失(△)	△171,989	△110,499
減価償却費	25,043	23,914
のれん償却額	4,629	4,629
減損損失	—	15,057
貸倒引当金の増減額(△は減少)	6	14
賞与引当金の増減額(△は減少)	2,103	△9,206
返品調整引当金の増減額(△は減少)	3,744	6,339
ポイント引当金の増減額(△は減少)	△562	△832
株主優待引当金の増減額(△は減少)	△40,799	△22,277
受取利息及び受取配当金	△17	△20
支払利息	6,093	4,095
新株予約権戻入益	△417	△334
売上債権の増減額(△は増加)	60,956	25,715
たな卸資産の増減額(△は増加)	20,164	△37,966
仕入債務の増減額(△は減少)	△38,832	△49,278
未払金及び未払費用の増減額(△は減少)	28,881	20,057
未払消費税等の増減額(△は減少)	5,769	△5,131
預り金の増減額(△は減少)	△550	803
その他	20,652	16,578
小計	△75,122	△118,339
利息及び配当金の受取額	8	4
利息の支払額	△6,063	△4,415
法人税等の還付額	38,399	7,169
法人税等の支払額	△2,610	△2,422
営業活動によるキャッシュ・フロー	△45,388	△118,004
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の払戻による収入	50,023	—
有形固定資産の取得による支出	△7,036	△16,452
無形固定資産の取得による支出	△7,329	△13,327
事業譲受による前払金の支出	—	△88,000
事業譲受による支出	△15,000	—
敷金の差入による支出	△268	△1,593
敷金の回収による収入	846	12,796
差入保証金の差入による支出	—	△473
差入保証金の回収による収入	1,500	—
投資活動によるキャッシュ・フロー	22,736	△107,050
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の返済による支出	△50,000	—
長期借入れによる収入	—	40,000
長期借入金の返済による支出	△71,474	△71,472
自己株式の処分による収入	—	324
自己株式の取得による支出	△68	△374
リース債務の返済による支出	△1,082	△183
新株予約権の行使による株式の発行による収入	—	100,039
財務活動によるキャッシュ・フロー	△122,624	68,334
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△145,277	△156,720
現金及び現金同等物の期首残高	1,201,600	969,144
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	55,492	—
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,111,816	812,423

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響に関する会計上の見積り

前連結会計年度の有価証券報告書に記載した新型コロナウイルス感染症拡大の影響による会計上の見積りの仮定について、新たな追加情報の発生及び重要な変更はありません。

なお、新型コロナウイルス感染症の収束時期は不透明であり、影響が長期化し、上述の仮定が見込まれなくなった場合には、将来の連結財務諸表に重要な影響を与える可能性があります。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2020年12月17日付でOakキャピタル株式会社から第15回新株予約権の一部の権利行使による払込みを受け、資本金及び資本準備金がそれぞれ50,322千円増加しております。この結果、当第2四半期連結累計期間末において資本金が983,131千円、資本剰余金が450,072千円となっております。

(セグメント情報等)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

前第2四半期連結累計期間(自 2019年10月1日 至 2020年3月31日)

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
	コミュニケーション・セールス事業	化粧品卸事業	衛生コンサルティング事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	569,687	310,936	26,974	907,598	—	907,598
セグメント間の内部売上高又は振替高	240	988	—	1,228	△1,228	—
計	569,927	311,925	26,974	908,826	△1,228	907,598
セグメント利益又は損失(△)	△175,842	19,249	△28,251	△184,844	18,162	△166,682

当第2四半期連結累計期間(自 2020年10月1日 至 2021年3月31日)

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
	コミュニケーション・セールス事業	化粧品卸事業	衛生コンサルティング事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	685,896	204,799	89,313	980,009	—	980,009
セグメント間の内部売上高又は振替高	240	—	252	493	△493	—
計	686,137	204,799	89,565	980,502	△493	980,009
セグメント損失(△)	△21,695	△81,694	△6,988	△110,378	16,836	△93,541

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容
(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益又は損失	前第2四半期 連結累計期間	当第2四半期 連結累計期間
報告セグメント計	△184,844	△110,378
全社収益(注)1	205,320	141,000
全社費用(注)2	△144,964	△127,122
その他の調整額	△42,192	2,958
四半期連結損益計算書の営業損失(△)	△166,682	△93,541

(注) 1. 全社収益は、当社におけるグループ会社からの経営指導料であります。

2. 全社費用は、当社における持株会社運営に係る費用であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

前第2四半期連結累計期間(自2019年10月1日至2020年3月31日)

(のれんの金額の重要な変動)

「コミュニケーション・セールス事業」において、当社の連結子会社である株式会社フェヴリナが、株式会社うるわし堂よりエニシングホワイト事業を譲り受けたことに伴い、のれんの金額が11,674千円増加しております。

当第2四半期連結累計期間(自2020年10月1日至2021年3月31日)

(固定資産に係る重要な減損損失)

「コミュニケーション・セールス事業」において、営業活動から生ずる損益が継続してマイナスであるため、将来の回収可能性を検討した結果、当初予想したキャッシュ・フローが見込めないため、減損損失15,057千円を計上しております。その内訳は、工具器具及び備品2,299千円、ソフトウェア12,757千円であります。

(重要な後発事象)

(連結子会社による事業譲受)

当社は、2021年3月12日開催の取締役会において、当社子会社である合同会社アロマ（当該事業譲受のために2021年2月4日設立）が、日本リビング株式会社より、同社が運営するアロマグッズを販売する事業（以下、「アロマ事業」という。）を譲り受け、新たな事業を開始することを決議し、2021年4月1日付で事業を譲り受けました。

1. 当該事業の譲受けの目的

本事業譲受により当社が新たに開始するアロマ事業は、当社グループの売上規模の拡大に貢献するのみならず、当社グループのシナジー効果はたらく売上・利益の成長ドライバーとしての一端も担うものと考え、譲受けを決定いたしました。

2. 当該事業の譲受け先の名称

日本リビング株式会社

3. 事業譲受日

2021年4月1日

4. 企業結合の法的形式

現金を対価とする事業譲受

5. 譲受事業の取得価額及び対価の種類ごとの内訳

現金 88,000千円

6. 譲受事業の資産・負債の項目及び金額

現時点では確定しておりません。

7. 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間又は負ののれん発生益の金額及び発生原因

現時点では確定しておりません。

3. その他

継続企業の前提に関する重要事象等

当社グループは前連結会計年度において営業損失397,831千円及び親会社株主に帰属する当期純損失を464,829千円計上するとともに、当第2四半期連結累計期間においても営業損失93,541千円及び親会社株主に帰属する四半期純損失88,009千円を計上しているため、引き続き継続企業の前提に関する重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しております。

当社グループは、当該事象を解消又は改善するために様々な対応策をすでに一部実施しており、今後も遂行してまいります。これらの対応策を実行することにより、継続企業の前提に関する重要な不確実性は存在しないと判断しております。

(対応策)

1. コミュニケーション・セールス事業

- ① Web営業の強化による新規顧客の獲得及び顧客ストックの積み上げ
- ② 営業体制の再構築による新規顧客のリピーター化、定期顧客化、一定期間お取引のない顧客への再販並びにクロスセルの推進による収益拡大
- ③ 海外市場における卸営業、越境ECによる海外進出

2. 化粧品卸事業

- ① 広告宣伝・販売促進活動の強化による国内卸販売の回復、EC販売の伸長、海外販売の拡大
- ② 新商品開発・投入による販売強化

3. 衛生コンサルティング事業

- ① 大手企業との協業、代理店の拡大による空間除菌関連商品の販売拡大
- ② イベント施設、飲食店、食品工場向け衛生サービスに関する需要掘り起こし

4. コスト削減又は効率的配分の徹底

前連結会計年度から実施している経費削減活動を徹底するとともに収益拡大に必要な広告宣伝や販売促進に係るコストについては、効率的かつ効果的な配分を徹底する。

5. 成長企業・事業のM&A

2020年6月25日に公表した「成長戦略に関するお知らせ」に記載のとおり「コンプレックス解消ビジネス分野」、「エンジョイライフ分野」、「Webマーケティング会社」におけるM&Aを積極的に推進する。

6. 資金調達

上記1から3の既存事業の施策を遂行するための運転資金は自己資本及び金融機関からの調達により確保していくが、2020年6月12日に公表した「第三者割当により発行される新株式及び第15回新株予約権の募集に関するお知らせ」に記載のとおり、上記5の成長性を見込める企業・事業のM&Aを積極的に推進するための資金として第三者割当増資により8億円の資金調達を充当する。